

築地地区まちづくり事業マネジメント会議(第3回)(令和7年1月16日~24日) における主な御意見の概要

※●は学識経験者委員、○は東京都委員、◎は事業予定者委員の意見を示す

【附帯意見の計画への反映について】

- 大規模集客・交流施設等のデザインは洗練されてきた。
- MICE 棟のデザインはまだブラッシュアップする余地がある。
- デザインで日本の伝統を表現することに加えて、築地という場所が常に新しいものに挑戦してきたという「発展性」や「繁栄」といった意味合いも表現できると良い。
- 「ONEPARK×ONETOWN」という事業コンセプトと日本の伝統を表現するデザインとのつながりを分かりやすく説明できると良い。
- 実際の設計に当たっては、デザインと機能の意味合い等も念頭に置きながら検討を深めていただきたい。
- 築地をフロンテージとして捉えるなら、伝統のモチーフだけでなく、次の世代、未来の東京のありようについてのメッセージが明確になるべき。
- 大規模集客・交流施設のデザイン変更に伴い、懸念されていた環状2号線の安全性という面からも、改善された点は評価できる。
- ◎ いただいたご意見を踏まえ、引き続きブラッシュアップをしていきたい。

【基本計画について】

- 基本計画の位置付けの説明、上位計画等との関係を示す体系図等が必要だと思う。
- 多くの内容が第2章の整備計画に詰め込まれており、方針を示す章とハード整備について記載する章を分けるなど、工夫しても良い。
- 都市基盤整備には「人を中心とした重層的な交通システムの構築」といったコンセプトを冒頭に記載してはどうか。その後の順番も、歩行者ネットワークを自動車交通よりも先に記載するべき。
- 日本の伝統を表現するデザインという観点でいえば、江戸は庶民の園芸文化が花開いた時代であり、ランドスケープにもそうした視点を盛り込めると良い。
- 歩行者は歩くだけでなく、鉄道等も利用して移動することを踏まえると、歩行者ネットワークの中は、こうした公共交通が表現されるべき。
- 70年後に更地にするという定期借地の仕組みに対し、環境負荷の観点を含めて、このプロジェクトでどう向き合っていくのか考えておく必要がある。
- 歩行者交通については、周辺との関係が分かるようにし、自動車交通についてもどのようにエリアの外に出していくのかを念頭に置いて作成いただきたい。
- 新たな文化の創造や食文化の発信にどのように取り組んでいくのか、今後、どのように実現していくかというプロセスが重要となる。

- 情報発信だけでなく、その他のエリアマネジメントの取組についてもフェーズごとにそれぞれどのように取り組むのか検討いただきたい。
- 「大規模集客・交流施設」、「食文化・にぎわい」、「イノベーション」、「迎賓・ホスピタリティ」などの取組を通じて東京の国際競争力を強化していくという趣旨をもう少し明確に記載できないか。
- ハードのデザインだけでなく、プロジェクトのキービジュアルなどのソフトのデザインも含めて総合的にブランディングしていくという提案は重要な視点だと思う。来年度以降、早い段階から取組を展開していただきたい。
- 高速道路晴海線や臨海地下鉄ができる前であっても、周辺地域に支障がでないよう、引き続き検討を進めていただきたい。
- ◎ いただいたご意見を踏まえ引き続きブラッシュアップをしていく。